令和５年度　（一社）犬山祭保存会理事会　３委員会　第２回　議事録

●日時

令和５年２月４日（土）　１７：３０～18：３０

●場所

IMASEN 犬山からくりミュージアム玉屋庄兵衛工房　２F

●出席者（敬称略）

【常任理事】会長（石田）、会長代行（多和田）、副会長（澤野、長谷川）、会計（下山）、伝統文化副委員長（長井）、てこ委員長（浅野）、てこ副委員長（吉田成伸、陸浦）、企画広報委員長（松田）、企画広報副委員長（柴田）、専務理事(溝口)

●議事

Ⅰ．会長挨拶

Ⅱ．会の取り決めについて

Ⅲ．議題　「令和５年犬山祭について」

●議事内容

Ⅱ．会の取り決めについて

次第、議事録の作成は企画広報が行う。

議事録は今回より、次第は次回より実施。

Ⅲ．令和５年犬山祭について

① 車山の 13 輌揃えの件

今年の春は様々な事情により実現不可能であるが、今年は保存会 50 周年の記念の年で、秋の城下町祭りの際に揃えることができないか継続審議していく。

先日の企画委員会でもその希望を報告し、今年度予算の範囲で行うのであれば不可能ではないとの見解をもらう。

[問題点]

・限られた予算になる。

＞警備費など保存会員の人的要素で賄えるところは行い、警備費などの予算を削減する。

＞今後も継続審議していく。

② 警備の件

前回の 3 委員会議論の時に上がった、今後の夜車山 13 輌車山揃えを見据えた警備を今年度の祭で警備のプロの意見を求めるという案に対し、先日開催された犬山祭企画委員会にて相談。

役所の返答としてはこれまでは配置や、人員数など経験則で決めていたので、こうすれば安全性を高められるという基準などはないということ。

秋にも車山を揃えたいという展望も見据え、今後も継続審議していく。

③ 本楽の祝詞について、針綱神社から要望があった。

[現状]

今までは、本楽の朝、全町内が揃った段階で一輌づつ祝詞をあげてからからくり奉納していた。

[要望事項]

全部一度に祝詞をあげる。その後順次からくり奉納する方法を提案されている。

結果、一輌づつの奉納時間が短縮される。神輿の渡御時間が早くなる。

[議論の結果]

スムーズ化でき、時間にもゆとりができるのでるので、その提案に対し賛成の方向で進めことを理事会に提議する。

④ 試楽夜車山運行についての計画

北組と南組に分け、神社と駅前に分かれる運行計画を進めていく。

北組(余坂→寺内町→魚屋町→新町→練屋町→枝町)=神社

南組(中本町→外町→下本町→名栗町→鍛治屋町→熊野町)=駅前

[議論の結果]

この方向で、理事会、てこ委員会に提議し検討していく。

⑤ 出発式

これまでは駅前組のみ出発式を取り行ってきた。

今回より神社組でも出発式を行う方向で進め理事会に提議する

。

[今後の課題]

・神社組での式典の場所や機材の確保＞

・口上者の選出＞

など継続審議。

⑥ 試楽の鏡割りの実施について

・犬山祭の動向は全国からも注目を集めているので、コロナも５類相当に落ち着くので通常通り行っても良いのでは＞

・鏡割りの樽酒は協賛の品であり披露のもの＞

・観覧者に振る舞うのではなく、一升瓶など別の方法で町内ごとなどにご協賛いただき、披露するのはどうか＞

・人が多く集まり、口に含むことでもあるので未だ危険ではないか＞

・メディアに取り上げられ、画像に残るなどコロナ関連で問題があった場合を想定するとまだ時期が早いのではないか＞

[議論の結果]

今回も鏡割りの実施はコロナ禍を考慮し見送る方向で進め理事会に提議する。

⑦ アナウンサーについて

・車山やからくりの紹介などを小学校に依頼し、学生が行なってもらうのはどうか＞

・名経の学生にお願いしたらどうか＞

・中学や高校生はどうか＞

[問題点など]

・これからそのための新しい原稿などを考えていくのには時間がない＞

・現在のアナウンス方はどうするか＞

・小学生の場合、アナウンス指導や当日の引率や、面倒が必要＞

など継続審議。

⑧ 宵祭り(場ならし)について

過去に行われていた祭前日の催し。
可能な町内は、前日車山蔵を開放し練習及び寄り合いなどを行う。
・必ず行うなど、無理強いにしない＞
・予算が必要になるというほどまでやらない。負担がかからないようにする＞
・どこかの町内がやっていたらやるのでは＞
・中長期的に見据えて計画していく＞
・道路は使用せず、民地で行う＞
今後も継続審議していく。

⑨ 会員証について

昨年開始された会員証。昨年はカード。
企画広報で、安価で持続可能であり、SDGs に適したものを議論し、国府宮の裸祭りの
「なおい紐」のような手ぬぐいを 10 等分に切り分け
た紐を、着衣や、兵児帯、腕、などに巻いくようなアイデアを提案。
＊「犬山祭」「巴」「つなぐ、ひきつぐ、ささえる」をデザインに反映する。
＊神社や、伝統的な色をモチーフに毎年色を変え 5～6 年周期で一巡する。
　毎年揃えていくとてこさんの腰帯のように衣装映えする。
＊昨年までのカードも好評だったのでカードも並行して行う。
　カードはすぐにできるので一般の方や、早く欲しい方には配布する。
＊紐単体でのお祓いはできない(ご縁蝋燭の際に交渉経験あり)ので、てこ固め式の時などに
　持ち寄って一緒にご祈祷いただく。
＊配布は祭試楽の朝の集会時に各理事・代表に渡す。
＊手ぬぐいの生産ミニマムである 2000 本作成する。(1 本=@125＊2/4 現在の概算見積)

[問題点]
・注染で作成するため 2/6 にオーダーしないと祭当日に間に合わない＞
・手ぬぐいを 10 本の紐状に分ける作業が必要＞
　作業の時間、人員も確保しなければならない＞
・今年は何色で行くか＞
・生産期間の関係で事前の理事会などで配布ができない。
　次年は早めにオーダーし配布するように計画しなければならない。

この後の理事会に提案する。

＊今年は「青」色にする。

●次回日時

令和５年２月１９日

●次回場所

からくり館２階

●記録日

令和５年２月４日

●記録者

企画広報　柴田